

2026 年 1 月 27 日

各位

株式会社三井住友銀行

住友精化株式会社へのシンジケーション方式による
「サステナビリティ・リンク・ローン」の組成について

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留 朗裕）は、住友精化株式会社（代表取締役社長：織田 佳明/以下、「住友精化」）と、シンジケーション方式によるサステナビリティ・リンク・ローン（以下、「本ローン」）契約を締結いたしました。株式会社三井住友銀行はアレンジャーとして住友精化より指名を受け、本件を組成いたしました。

サステナビリティ・リンク・ローンは、借り手のサステナビリティ戦略と整合したサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（以下、「SPTs」）を設定し、貸出条件と SPTs に対する借り手のパフォーマンスとを連携させ、SPTs 達成への動機付けを与えることで、環境的・社会的に持続可能な経済活動及び経済成長を促進し、支援することを目指すものです。

住友精化は 1944 年に肥料を製造・販売する会社として創業し、現在は吸水性樹脂事業、機能マテリアル事業を展開する化学メーカーです。同社は、SDGs の課題解決に貢献していくことが急務であると認識し、2022 年度に「マテリアリティ」（重要課題）を特定しています。特定した 6 項目のマテリアリティは、人々の生活において重要な「衛生、健康、QOL」、人権の尊重において重要な「ジェンダー平等」、環境の持続性において重要な「エネルギー、技術革新、カーボンニュートラル」に関係したものとなっています。また、これらの課題解決に向かつての進捗を定量的に把握できるよう KPI を設定し、2025 年度と 2030 年度に達成すべき定量化目標を定めて継続的に取り組みを進めています。

住友精化ではこうした取組を加速させるべく、2025 年 10 月に「サステナビリティ・リンク・ローン・フレームワーク」（以下、「本フレームワーク」）を策定しました。本フレームワークでは、同社のマテリアリティのうちの一つである「カーボンニュートラルの実現」に係る指標が KPI として採り入れられており、サステナブルファイナンスの活用により、より実効性のある取組の実行につなげていくことが企図されています。本ローンでは本フレームワークに基づく SPTs を定め、達成への動機付けとして、SPTs 達成時に金利が連動する貸出条件を設定しています。

尚、本フレームワークは、国際金融業界団体である LMA（Loan Market Association）、LSTA（Loan Syndications and Trading Association）及び APLMA（Asia Pacific Loan Market Association）にて策定された「サステナビリティ・リンク・ローン原則」、環境省にて策定された「サステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」において求められる項目について基準を満たしているとの第三者意見を、株式会社格付投資情報センター（R&I）より取得しています。

株式会社三井住友銀行では、お客さまのサステナビリティ経営に向けたソリューションの提供や対話を行い、持続可能な社会及び市場の形成に一層貢献してまいります。

【本ローンの概要】

契約締結日	2026 年 1 月 27 日
アレンジャー	株式会社三井住友銀行
貸付人	国内金融機関
SPTs	1. Scope1、2 における GHG 排出量を 2033 年までに 129,949t-CO2 とする 2. Scope3(カテゴリー1+カテゴリー12)における GHG 排出量 を 2033 年までに 977,480t-CO2 とする ※上記を基に、借入期間に応じた各年度目標を採用

(参考)

住友精化株式会社ホームページ：

<https://www.sumitomoseika.co.jp/>をご参照ください。

株式会社格付投資情報センター（R&I）による第三者意見：

<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>をご参照ください。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

法人戦略部サステナブルソリューション室

TEL：03-4333-6965

このお知らせは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。